統合報告書 住友精化レポート2026（レスポンシブル・ケア関連情報）
第三者検証 意見書

2026年9月14日

住友精化株式会社
代表取締役社長　織田 佳明 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長
石井 浩

■検証の目的

レスポンシブル・ケア報告書検証は、住友精化株式会社が作成した「統合報告書 住友精化レポート2026」（以後、報告書と略す）に記載された下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。なお、検証範囲は貴社より提供されたレスポンシブル・ケア関連情報のみとします。

1）パフォーマンス指標（数値）の算出・集計方法の合理性および数値の正確性
2）数値以外の記載情報の正確性
3）レスポンシブル・ケア活動の評価

■検証の手順

・ 本社において、各サイト（事業所、工場等）から報告される数値の集計方法の合理性、および数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者および報告書作成責任者に質問すること、ならびにそれぞれの責任者より資料提示と説明を受けることにより行いました。
・ 別府工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性および数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者および報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、ならびに証拠物件と照合することにより行いました。
・ 数値および数値以外の記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■意見

1）パフォーマンス指標（数値）の算出・集計方法の合理性および数値の正確性について
・ 数値の算出・集計方法は、本社および別府工場において、合理的な方法を採用しています。
・ データ集計システムの活用と担当者間の相互確認で、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。

2）数値以外の記載情報の正確性について
・ 報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さに関し、若干の問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正事項は認められません。

3）レスポンシブル・ケア（RC）活動について
・ Scope1，2で、2050年カーボンニュートラル実現の目標を掲げ、省エネ・合理化、電力の非化石化やクレジットの使用等、CO2削減の詳細計画を定め、炭素循環社会実現タスクフォースを中心にした積極的な取り組みを高く評価します。
・ 紙おむつに使用される吸水性樹脂（SAP）の水平ケミカルリサイクルの技術開発を評価します。さらに、一般廃棄物の削減や資源循環の促進という社会的課題の解決への貢献を期待します。
・ プロセス排水処理工程の変更、廃酸や廃アルカリの委託処理方法の見直しによる最終埋め立て量の半減、亜酸化窒素排出量の約9割削減等、環境負荷低減に向けた具体的かつ継続的な取り組みを高く評価します。
・ 別府工場では、マネジメントによるSEIKA安全基本ルール厳守の再徹底、安全環境管理者会議を通じた情報共有、各職場でのリスクアセスメントなど、各層における真摯な取り組みで、休業災害ゼロが20年継続していることを高く評価します。
・ 播磨町などが主催する中学生向け「未来の働き方発見フェア」で、自社の製品と社会との係わり、社会人としての心構えについてガイダンスしたことや、近隣住民との意見交換会を開催し、地域の発展、課題解決に貢献していることを評価します。
・ 「水リスクの把握と対策」、「生物多様性保全への取り組み」は、内容がわかりやすく、読者の参考になります。

－以 上－